

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年11月28日月曜日

## ロード・バランサを構成しORDSの可用性を確保する(1) - サーバー証明書の発行

Oracle Cloud Infrastructureの証明書サービスを使って、サーバー証明書を発行します。プライベートCAは構成済みとします。

OCIコンソールより**証明書サービス**を開き、**証明書の作成**を実行します。



**証明書タイプ**として**内部CAによって発行済**(英語では**Issued by internal CA** - 内部CAによる発行)を選択します。**名前**は**TestServ**とします。**次へ**を進みます。



**サブジェクト情報**を設定します。

**共通名**（CN=で指定される項目 - Common Name）として、このサーバーをアクセスするURLに含まれる**ホスト名**を入力します。**サブジェクトの代替名**というのは**SAN(Subject Alternative Name)**のことです。**DNS名**を選択し、共通名と同じ**ホスト名**を入力します。

**次へ**を進みます。

証明書の作成

サブジェクト情報

サブジェクトの代称名: testmaven.000000.dev

DNS名: testmaven.000000.dev

更新

証明書構成を設定します。

証明書プロファイル・タイプとしてTLSサーバーを選択します。発行元認証局として作成済みのルートCAを選択します。有効期間の開始日は空白（即時有効）とし、有効期間の終了日はデフォルトのまま変更しません。キー・アルゴリズムとしてRSA2048を選択し、次へ進みます。

証明書の作成

証明書構成

証明書プロファイル・タイプ: TLSサーバー

APKに発行する証明書: VIRIDOTCOM

有効期間の終了日: 2024年2月27日 00:00 UTC

更新

ルールを設定します。

更新ルールの更新間隔(日数)はデフォルトの90日、拡張更新期間(日数)もデフォルトの30日から変更しません。

次へ進みます。

証明書の作成

ルール

更新ルール

更新間隔(日数): 90

拡張更新期間(日数): 30

更新

サマリーが表示されます。証明書の作成をクリックします。

証明書が正常に作成されました。と表示されますが、正常に作成されたかどうかは証明書の状態より確認する必要があります。証明書詳細の表示をクリックします。

作成した証明書がアクティブであることを確認します。

以上で、ロード・バランサで使用する証明書の作成は完了です。

続く

Yuji N. 時刻: 16:30

共有

<

ホーム

>

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---